名古屋城（金鯱城, 金城, 柳城, 亀屋城, 蓬左城）

（国重要文化財, 国特別史跡, 百名城）（名古屋市中区本丸）（名城公園）

名古屋城は、織田信長誕生の城とされる今川氏・織田氏の那古野城（なごやじょう）の跡周辺に、徳川家康が九男義直のために天下普請によって築城したとされる。以降は徳川御三家の一つでもある尾張徳川家 17 代の居城として明治まで利用された。

姫路城、熊本城とともに日本三名城に数えられ、伊勢音頭にも「伊勢は津でもつ、津は伊勢でもつ、尾張名古屋は城でもつ」と詠われている。大天守に上げられた金の鯱（金鯱（きんこ））は、城だけでなく名古屋の街の象徴にもなっている。

大小天守と櫓、門、御殿などの一部は昭和戦前期まで残存していたが名古屋大空襲（1945 年）によって大部分を焼失した。戦後に天守などが外観復元され、現在城跡は名城公園として整備されている。

歴史・沿革

戦国時代

16 世紀の前半に今川氏親が、尾張進出のために築いた柳ノ丸が名古屋城の起源とされる。この城は、のちの名古屋城二之丸一帯にあったと考えられている。1532 年（天文元年）、織田信秀が今川氏豊から奪取し那古野城と改名された。

信秀は一時期この城に居住し、彼の嫡男織田信長はこの城で生まれたといわれている。のちに信秀は古渡城に移り、那古野城は信長の居城となったが、1555 年（弘治元年）、信長が清須城（清洲城）に本拠を移したため、廃城とされた。

江戸時代

- 清須城は長らく尾張の中心であったが、関ヶ原の戦い以降の政治情勢や、水害に弱い清須の地形の問題などから、徳川家康は 1609 年（慶長 14 年）に、九男義直の尾張藩の居城として、名古屋に城を築くことを決定。1610 年（慶長 15 年）、西国諸大名の助役による天下普請で築城が開始した。

現代にみる清須越しの距離感。清洲城模擬天守からみた名古屋城（写真中央部）。2009 年 2 月。

- 普請奉行は滝川忠征、佐久間政実ら 5 名、作事奉行には大久保長安、小堀政一ら 9 名が任ぜられた。縄張は牧野助右衛門。石垣は諸大名の分担によって築かれ、中でも最も高度な技術を要した天守台石垣は普請助役として加藤清正が築いた。天守は作事奉行の小堀政一、大工頭には中井正清と伝えられ（大工棟梁に中井正清で、岡部又右衛門が大工頭であったとの説もある）、1612 年（慶長 17 年）までに大天守が完成する。名古屋城築城普請助役としては、加藤清正以外に、寺沢広高、細川忠興、毛利高政、生駒正俊、黒田長政、木下延俊、福島正則、池田輝政、鍋島勝茂、毛利秀就、加藤嘉明、浅野幸長、田中忠政、山内忠義、竹中重利、稲葉典通、蜂須賀至鎮、金森可重、前田利光の外様大名が石に刻印を打って石垣工事を負担し延べ 558 万人の工事役夫で僅か 1 年足らずで石垣を完成。
- 清須からの移住は、名古屋城下の地割・町割を実施した 1612 年（慶長 17 年）頃から徳川義直が名古屋城に移った 1616 年（元和 2 年）の間に行われたと思われる。この移住は清須越しと称され、家臣、町人はもとより、社寺 3 社 110 か寺、清須城小天守も移るという徹底的なものであった。
- 1634 年（寛永 11 年）には、徳川家光が上洛の途中で立ち寄っている。

立地

名古屋城の空中写真（上が北）国土交通省 国土画像情報（カラー空中写真）を基に作成

名古屋城の城地は、濃尾平野に注ぐ庄内川が形作った名古屋台地の西北端に位置する。台地は濃尾平野に向かって突き出しており、平野の北を一望に監視できる軍事的な要地にあたる。

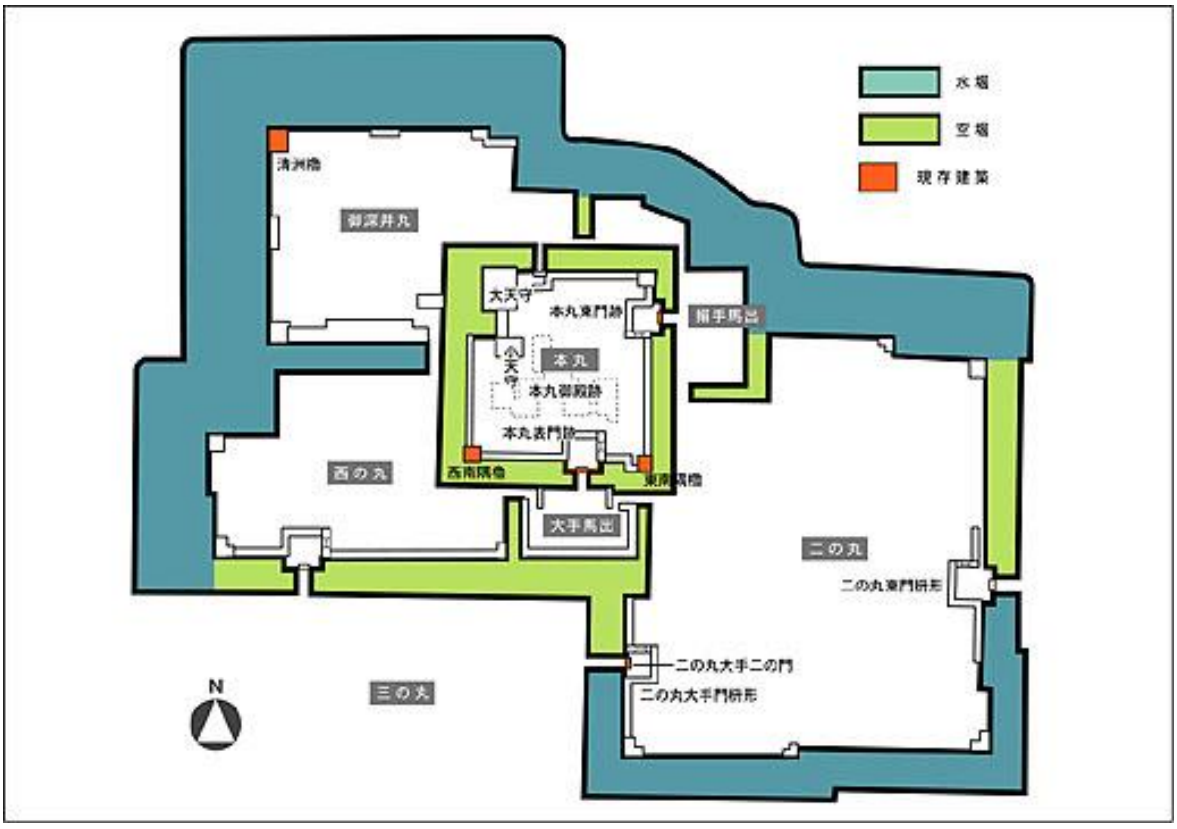
築城以前、台地縁の西面と北面は切り立った崖で、その崖下は低湿地となっており、天然の防御ラインを形成した。また、伊勢湾に面した港である南の熱田神宮門前町からは台地の西端に沿って堀川が掘削され、築城物資の輸送とともに、名古屋城下町の西の守りの機能を果たした。

縄張

名古屋城の縄張は、それぞれの郭が長方形で直線の城壁が多く、角が直角で単純なつくりである。

構造は典型的な梯郭式平城で、本丸を中心として南東を二之丸、南西を西之丸（にしのまる）、北西を御深井丸（おふけまる）が取り囲んでいる。さらに南から東にかけて三之丸が囲む。

西と北は水堀（現存）および低湿地によって防御された。南と東は広大な三之丸が二之丸と西之丸を取り巻き、その外側の幅の広い空堀（一部現存）や水堀に守られた外郭を構成した。

さらにその外側には、総構え（そうがまえ）または総曲輪（そうぐるわ）と呼ばれる城と城下町を囲い込む郭も計画されていた。西は今の枇杷島橋（名古屋市西区枇杷島付近）、南は古渡旧城下（名古屋市中区橘付近）、東は今の矢田川橋（名古屋市東区矢田町付近）に及ぶ面積となる予定であったが、大坂夏の陣が終わると普請は中止された。ただし、国境の木曾川には御囲堤という堤防が造られることで、西の防備が整備されている。

Wikipedia による